

うきたむ考古通信

2025年6・8月合併号

■発行者 うきたむ考古の会
事務局 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内
〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117
電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

これまでの体験事業の結果

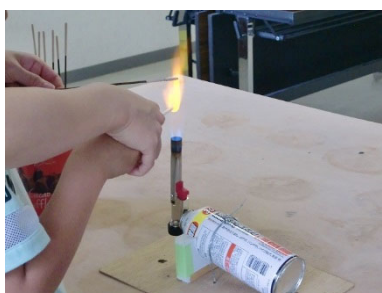
1 「赤ちゃん手形をつくろう」

5月3日(金)～5月6日(月)の4日間開催しました。今年度の目標は手形足形合計700個以上(令和2年度311個、令和3年度448個、令和4年度489個、令和5年度673個、令和6年度564個)としましたが、467個に留まり大幅に下回りました。少子化が進んでおり、今後も大きく増加することはなさそうです。



2 「ガラス玉をつくろう」

6月7日(土)に1回目が開催されました。この事業は用具の関係で予約制となっておりますが、目標は前・後期で10組(令和6年度8組)としていましたが前期は7組の参加がありました。



3 「コースターをつくろう」(簡易織機、あんぎん台使用)・ 「古代風ブレスレットをつくろう」

6月14日(土)に第1回目が開催されました。2回合わせて目標17名(令和6年度13名)に設定しましたが、1回目は両方合わせて4名に留まりました。

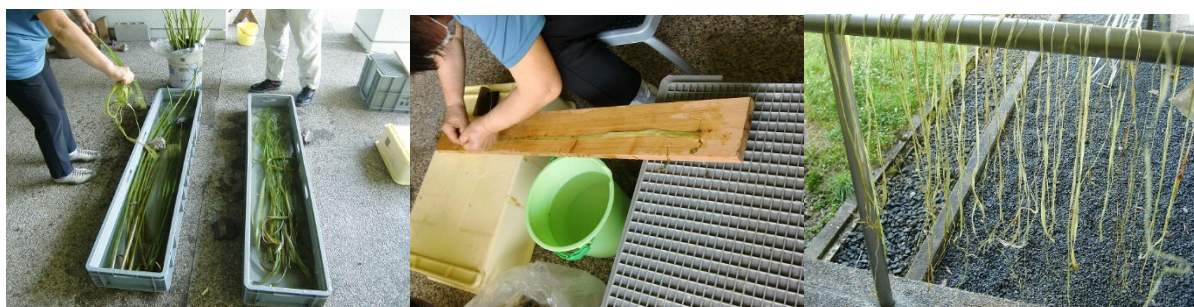
4 「勾玉・弓矢・石器をつくろう」

今年度は2回の開催と1回減りました。7月5日(土)に第1回目が開催されました。参加者は勾玉14名、弓矢1名、石器9名の合計24名に留まりました。開催日を1週間間違えた福島県の2名の子供と2名の付き添いの親子が7月12日に来館しましたので、特別に弓矢作りを体験していただきました。



5 大人の自由研究-カラムシから繊維を取ろう-

7月12日(土)に開催しましたが、1名の参加に留まりました。館職員もこの作業に従事し、次回のコースター作りに間に合うよう、繊維取りをしました。





♥ 展示状況

特別テーマ展

「遊佐町の考古学Ⅱ－弥生時代から中世の遊佐町－」

6月14日(土)～9月7日(日)

遊佐町は平安時代の日本三代実録に「石鏃雨降る」との記事がある地として知られています。このことは、平安時代にはこの地が中央政府の支配下にあり、対蝦夷との関係の最前線にあったことを示していると考えられます。近年の発掘調査により、奈良時代の後半から町内の遺跡数が増加し始め、9世紀以降は平野部に多数の村が存在していることが明らかになりつつあります。

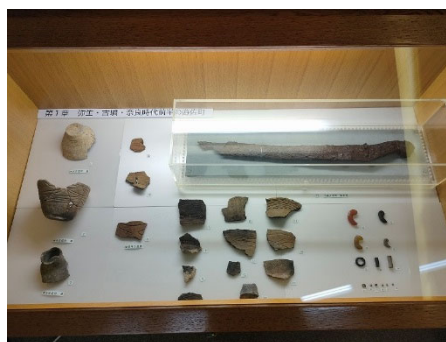
「山形県遺跡地図」によると、現在、遊佐町には210ヶ所の遺跡が登録されており、県内でも遺跡の多い町として知られています。この中で平安時代の遺跡数は88ヶ所にのぼり、このうち、30ヶ所を超える遺跡で発掘調査が行われています。

去年は、「遊佐町の考古学Ⅰ－旧石器時代・縄文時代」としてこれまでの調査成果を展示しましたが、今回は「遊佐町の考古学Ⅱ－弥生時代から中世の遊佐町－」と題し、去年に続く時代である弥生時代から中世までの調査成果を展示することといたしました。展示資料は合計679点に上ります。



第1章 弥生・古墳・奈良時代前半の遊佐町

弥生時代前期の神矢田遺跡(3点)、中期の柴燈林5遺跡(3点)、後期の袋冷遺跡の土器(11点)と丸池出土と記載されている(本来の出土地は柴燈林遺跡か?)古墳時代の勾玉(4点)・管玉(2点)・金環(1点)・小玉(6点)、奈良時代前半とされる三崎山地獄谷出土の蕨手刀(1点:酒田市指定文化財)と吹浦沖の飛鳥近海の海底から底引き網漁で上がった須恵器甕(1点)合計32点を展示しています。



第2章 奈良時代後半の遊佐町

宮ノ下遺跡に近い剣龍神社西窯跡で奈良時代8世紀第3四半期の須恵器が出土しています。吹浦遺跡の須恵器も当窯跡で焼かれた可能性があります。



吹浦遺跡の供膳器は底部へラ切の有台・無台坏が大半であるが、底部に蓆痕のある内黒土師器が1点出土しています。丸底でタタキのある赤焼土器の長胴甕、埴が伴っています。

上高田遺跡の1次調査河川跡SG最下層出土の8世紀第4四半期の土器は供膳器の有台坏、無台坏は底部へラ切りでこれに若干の底部へラ切のあかやき土器が伴っています。

第3章 平安時代の遊佐町の供膳器の変遷

宮ノ下遺跡の河川跡 SG1200 から出土した 9 世紀第 1 四半期の供膳器には須恵器の坏蓋、大小の有台坏、無台坏と赤焼土器の坏があります。須恵器の底部切り離しはすべて回転ヘラ切で赤焼土器坏も 1 点を除いてヘラ切です。この中には黒斑をもつものもあります。赤焼土器坏の回転糸切のものは混入の可能性も考慮に入れるべきかもしれません。

9 世紀第 2 四半期地正面遺跡 SX11 の須恵器坏蓋・有台・無台坏は底部切り離しがヘラ切が主体ですが、回転糸切も出現します。第 3 四半期の SE3 からは大形の内黒土師器・須恵器・赤焼土器が出土しましたが、底部切り離しは回転糸切が主体となります。赤焼土器坏は小形で身が深いものが主となります。

9 世紀第 3 四半期に入ると供膳器に占める須恵器の割合が下がり、第 4 四半期に入ると赤焼土器が増加し、須恵器の割合は 40%を切ります。底部切り離しは第 3・4 四半期とも回転糸切ですが、赤焼土器坏は身が深いものが多くなっています。

10 世紀に入ると供膳器の須恵器は極めて少なくなります。供膳器の多くは赤焼土器の坏・有台坏・有台皿となり、一定数の内黒土師器の有台・無台坏が伴います。

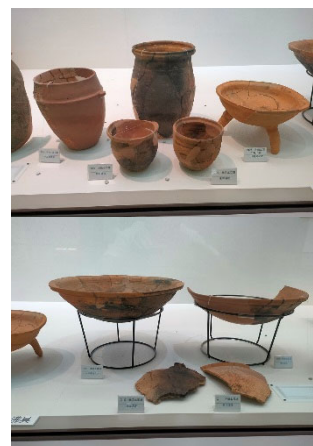
10 世紀中葉以降は供膳器の須恵器は姿を消します。供膳器は赤焼土器の坏・有台坏・皿が主体となり、第 3 四半期にもこの傾向は続きます。10 世紀第 4 四半期から 11 世紀第 1 四半期には坏に加え、小形の皿、有台皿、柱状高台のついた皿が多くなります。遊佐町ではこれ以降、12 世紀前半のの大楯遺跡・升形遺跡まで長い空白期となります。



第 4 章 奈良・平安時代の煮沸具と貯蔵具

煮沸具では、恐らく奈良時代まで遡る可能性が高い吹浦遺跡の土師器甕 2 点と平安時代とみられる上高田遺跡 SG 1 F7 から出土した赤焼土器の小甕、小深田遺跡の赤焼土器長胴甕と羽釜、東田遺跡から出土した平安時代の小甕、長胴甕と大坪遺跡の三足土器を展示しています。

貯蔵具では小深田遺跡 SK156、SD265、SD400 出土の奈良時代の短頸壺、壺、東田遺跡の短頸壺、小形壺、壺、堂田遺跡の鳥形須恵器、上高田遺跡の壺、上高田遺跡・東田遺跡の須恵器大甕を展示しています。



第5章 平安時代の木製品

平安時代の木製品の多くは上高田遺跡、宮ノ下遺跡、大坪遺跡の旧河川跡から出土しています。北東隅には上高田遺跡の建築部材と農耕具の鋤、宮ノ下遺跡の鍬、真美高田遺跡の鎌の柄、それに、狩猟具としての弓を展示しています。

器と台所では宮ノ下遺跡・上高田遺跡河川跡から出土した木製の蓋、皿、椀、木製の曲物、瓢箪製の柄杓、篋、宮ノ下遺跡から出土した箸、大坪遺跡、升川遺跡、上高田遺跡から出土した火鑽臼を展示しています。



第6章 地鎮の土器

遊佐町の遺跡では地震で倒壊し、柱を埋めた「掘り方」が大きく変形した痕跡が下長橋遺跡、浮橋遺跡で確認されています。また、地鎮祭祀の一括埋納と考えられる遺構が上記2遺跡に加え、東田遺跡でも検出されています。

東田遺跡 SK470 から重なって出土した赤焼土器は一括埋納を示すと考えられます。

下長橋遺跡では官衙風の大形建物が倒壊した後に「仏式」で地鎮祭祀が行われ、その後にその道具一式を埋納した「特殊埋設遺構」が6基、小ピットに複数の赤焼土器土器坏や皿を埋納した土器埋設ピット8基が検出されています。今回はこれらのうち「特殊埋設遺構」のEU823、824の出土品を展示しました。EU823は甕の底部に12個の礫を入れ、その上に9枚の皿を入れています。EU824は甕の底部に8個の小暦を入れ、甕の内外に10枚の皿と有台付を配しています。皿の口縁部には煤が付着したものがあり、灯明皿として使用されたと考えられます。



第7章 平安時代の遊佐町の生産・手仕事・装身・陶硯・金属製品

遊佐町の平安時代の遺跡からは輪積み痕を残し、細かく割れた比較的厚手の土器片が出土することが珍しくありません。北目長田遺跡からは製塩遺構が見つかっており、製塩作業が行われていたことは間違いありません。また、吹浦遺跡と東田遺跡からも形の分かる輪積み痕のある土器が出土しています。小形で直立するものは土製支脚の可能性もあります。

漁撈具では吹浦遺跡、東田遺跡で大型土鍾が各1点、下長橋遺跡・上高田遺跡他で通常サイズの漁網鍾である土鍾が北目長田遺跡では一回り大きいサイズの土鍾が出土しています。

鍛冶用具としてのフイゴの羽口は下長橋遺跡・東田遺跡で出土しています。糸に撚りを掛ける紡錘車は吹浦遺跡・宮ノ下遺跡・北目長田遺跡で土製・石製のものが出土しています。

上高田遺跡からは手仕事に使われる木製の砧・漆刷毛・篋とその製品の栓が出土しています。

下長橋遺跡・宮ノ下遺跡では役人の帯飾りの石帯(巡方)が東田遺跡では石帯(丸鞆)が出土し、上高田遺跡・木原遺跡からは帯金具が出土しています。

上高田遺跡からは下駄、北目長田遺跡からは円面硯、東田遺跡からは二面硯・風字硯の陶硯が出土しています。鉄製品では吹浦遺跡の鉄鏃、上高田遺跡・北目長田遺跡の刀子、升川遺跡の鋏先を展示しています。大坪遺跡では皇朝十二銭のひとつ「隆平永寶」が出土していますが、他の平安時代の遺跡から出土した古銭は中世の渡来銭です。



第8章 平安時代の遊佐町の祈り・木簡・墨書土器

宮ノ下遺跡の仏画のある棒と椀(つえ)、上高田遺跡の人形・武器形・馬形などの形代と斎串、大坪遺跡の「轟」、「伴作万呂」の文字が書かれた木簡、上高田遺跡の稲の品種「畔越」「和早・一斛」が書かれた種粃の付札木簡などが出土しています。

遊佐町内の奈良・平安時代の遺跡から出土した墨書土器は2003年までの集計で1250点を超えています。この数字は庄内地方のすべての墨書土器の半数に迫る数となっています(伊藤 2003)。

100点を超える遺跡は東田、上高田、大坪、宮ノ下、北目長田遺跡で、20点を超える遺跡に地正面、下長橋、浮橋、小深田、木原の各遺跡があります。



第9章 平安時代の遊佐町の施釉陶器

遊佐町では東田遺跡(488～492)、宮ノ下遺跡(487)、下長橋遺跡(499～530)で緑釉陶器が、大坪遺跡(479～484)、東田遺跡(486)、下長橋遺跡(493～498)・581～537で灰釉陶器が出土しています。大坪



遺跡の灰釉陶器は9世紀後半の黒笹90号様式第2～3段階に位置づけられ、下長橋遺跡からはいずれも小破片ですが9世紀第4四半期の黒笹90号窯跡から10世紀末葉の虎溪山1号窯跡までの陶器が出土しています。

第 10 章 中世の遊佐町-大楯遺跡の出土品-

大楯遺跡は中世初期の庄内地方を代表する遺跡です。これまでの発掘調査で出土した遺物は平安時代末期から鎌倉時代の遺跡であること示しています。

遺構では内部に建物跡 4 棟と井戸跡 1 基がある柵木列で囲まれた施設が注目されます。建物は礎石建物 1 棟と掘立柱建物跡 3 棟ですが、建物軸線は囲み施設と同じ方位であり同時存在と考えられています。礎石建物は 3 間×3 間で東側に庇と玄関があり、玄関周りには石組の雨落ち溝が作られています。囲み施設内の掘立柱建物は東西棟が 2 棟、南北棟 1 棟です。

柵木列で囲われた中にある礎石建物は「持仏堂」、「社殿」(飯村 1996)、「神社跡?」とする見方から、葬送の場所に建つ「墳墓堂」とする荒川正夫(荒川 2001)・山口博之(山口 2005)氏の見解が有力となっています。

囲み施設の外側の建物は北東部で掘立柱建物跡 3 棟と井戸跡 4 基、北西部で掘立柱建物跡 4 棟と井戸跡 1 基が検出されています。

3 万点余りの出土品があり、大楯遺跡の住人の豊かできわめて高い文化を持っていたことを示しています。出土品の中ではかわらけが多量にあり、日常的に宴会が行われていたことを示しています。かわらけ(538~558)には完形の手づくね、ロクロ成形のものがあります。

国産陶器では珠洲(559~573)、瀬戸(574~576)、越前(577~578)の陶器(壺、甕、播鉢、皿、水瓶)などがあります。

木製品では箸が大量にあり、木製皿(579)、漆器皿(580・581)、小碗(582)、下駄(583)、篋(584)、糸巻(585)、人形(586)、砧(587)、櫛(644・645)も出土しています。曲物などの年輪年代資料は 12 世紀前半、中葉、後葉と 13 世紀中葉の年代を示しています。



輸入磁器は 700 点にも及ぶ青磁・白磁・青白磁に加え染付もありました。龍泉窯の青磁の碗(588~612)、小碗(613・614)、皿(615)、同安窯の碗(616~620)、皿(621~624))、白磁碗(625~629)、皿(630~637)、青白磁の皿(638~641)、合子(642・643)等が確認されています。



墨書板・硯(652・653)・鉄製品(654~658)・古銭(659~679)の出土も多く、墨書板では将棋の駒(646)や「ほろは」と書かれた遊佐荘に課せられた年貢の一つの鷺羽のつけ札(643)、「保元」の紀年名のある折敷の破片(650)などがあります。

囲み施設のある遺構群、国産・輸入陶磁器の質・量とも日本海側の北東部の遺跡では群を抜いており、平泉の柳之御所や鎌倉の出土陶磁器との類似性も指摘されています。

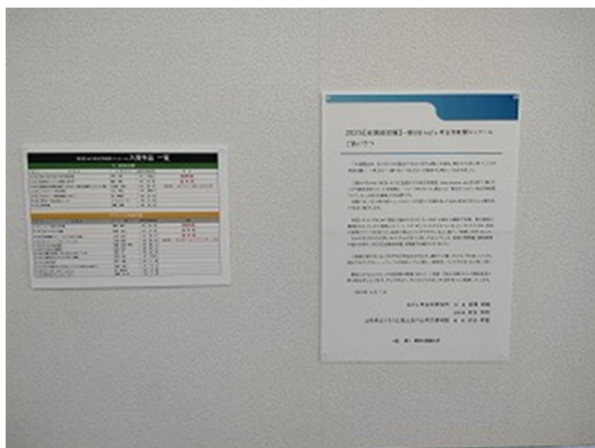
中世の遊佐町では大楯遺跡の他、升川遺跡でも 12 世紀中葉前後の総柱の建物で構成される集落が検出されています。



kid' S 考古学新聞コンクール全国巡回展

令和7年6月7日(土)～9月19日(金)

令和6年12月1日に審査結果が発表された「第5回 kid' s 考古学新聞」の入賞作品の巡回展です。今年度もロビーで展示しています。全国の小学生の作品を19点展示しています。5・6年生の入賞作品が7点、4年生以下のチャレンジ作品が12点です。今年も展示数は少ないのですが、素晴らしい力作が揃いです。残念ながら今回も山形県内の児童の入選作はありませんが、毎回力作ぞろいです。ご家族での見学をおすすめいたします。



研修事業



1 春の遺跡めぐり 6月1日(日) 酒田市の遺跡と文化財

春の遺跡めぐりは鶴岡市の北東部の旧藤島町と旧羽黒町を訪ねました。最初は史跡旧東田川郡役所及び郡会議事堂。館長さんの案内で郡会議事堂と郡役所の建物の特徴やどのように使われていたのかなどをお聞きし、展示物を見学しながら廻りました。その後、旧東田川電気事業組合倉庫として使われていた東田川文化記念館展示室で県指定となっている玉川遺跡出土の玉類や国内最大の独木舟等の考古資料を中心に見学しました。





続いて、これまで何回も発掘調査が行われた鶴岡市指定史跡藤島城跡と発掘調査後に保存された県指定史跡平形館跡を車内から見学し、羽黒山に向かう途中で 5 世紀に築造された鷲畑山 1 号墳、4 世紀代に遡る 2 号墳も車内から見学しました。

手向の集落では重要文化財黄金堂と街並みを見ながら、一路山頂へと向かいました。羽黒山頂の神社境内にあり、出羽三山の歴史と文化を物語る資料を収蔵・展示している、出羽三山歴史博物館を渡部学芸員に解説していただきながら見学しました。



昼食は斎館で精進料理をいただきました。この会場での昼食という機会はなかなかないのでということで計画しましたが、値段が高すぎるではとの意見も聞かれました。



昼食後は二手に分かれての行動となりました。バスに戻って、バスで隨身門まで降る足に自信のない方と、石段を降るグループです。

石段を降るグループは「三の坂」を降りきったところから芭蕉が宿泊した南谷に向かいました。この道は途中で一部崩落したところがあり、通行止めとなっていたましたが、強行突破しました。南谷では心字池跡や建物の礎石を見ながら往時をしのびました。





南谷を後にして石段に戻り、二の坂手前の茶屋を覗きながら、二の坂、一の坂を降り国宝五重塔に向かい、バスで下った一部の参加者も加えて記念撮影を行い、祓川に架かる神橋を渡って継子坂を登り、隨身門をくぐって、徒歩の旅を終えました。下りといえども結構大変で次の日から数日間、筋肉痛に悩まされました。



出羽三山神社を後にして、いでは文化記念館へ。富樫学芸員の説明を聞きながら、映像と展示品を鑑賞しました。

最後は玉川寺庭園へ。住職さんから寺の由来、歴史をうかがった後、庭園を散策し、境内にある玉川遺跡展示場で出土品を見せていただきました。予定していた県指定史跡玉川遺跡は未整備であることと、その概要は玉川遺跡展示場で知ることができたので、割愛としました。



2 みる・きく・ふれる遺跡の旅 6月28日(土)～29日(日)

昨年に続き、今年も群馬県への遺跡の旅でした。今年は中南部を廻りました。28日は山形県庁を6時、考古資料館を7時に出発し、東北自動車道の都賀・西方PAで案内の芹澤氏と合流し最初に見学地である史跡太田天神山古墳に11時に到着しました。外周を廻った後、墳丘にのぼりその巨大さを実感しました。



太田天神山古墳の次は同じく太田市にある金山城跡とガイダンス施設を見学しました。ガイダンス施設は立派な施設で見応えがありました。ガイダンス施設からバスで山道を移動し金山城へ。駐車場から展望台を経て石垣の大手虎口をへて本丸へ。最高地点の本丸には新田神社が祀られていました。本丸西の石垣の残存するところから見えた赤木連山も美しかったです。

少し遅い昼食は太田焼きそば岩崎屋で。特大焼きそばと焼きまんじゅう1本。食べきれなかった参加者も少なくならなかったようです。





昼食後は上野国新田郡家跡へ。遺跡の南には東山道が接し、長大な掘立柱建物跡が検出されています。その次は新田荘の中心部にある総持寺・長楽寺・東照宮と新田荘歴史資料館を見学しました。



そして、高崎市の群馬県立歴史博物館へ。国宝の綿貫観音山古墳から出土した数々の副葬品は素晴らしかったです。28日の最後は綿貫観音山古墳へ。きれいに整備されていました。

その後は宿舎の伊香保温泉伊香保グランドホテルへ。昨年も泊まった格安の宿泊施設で食事は夕・朝ともバイキングで飲み放題。

29日はまず、藤岡歴史館と隣接する七興山古墳へ。藤岡歴史館は旧石器時代から歴史時代までの通史的な展示となっていました。七興山古墳は周囲との比高差が高い前方後円墳でした。

次は多胡の碑と同記念館へ。ボランティアガイドの会長さんの概要説明を受けた後、覆い屋の中にある碑を覗き、記念館へ。記念館では上野三碑の精巧なレプリカを基に、お話を伺いました。栃木の旅で那須国造碑、昨年の秋の遺跡めぐりで多賀城碑を見ている

ので、日本三大古碑を制覇したことになります。

その後、群馬県立自然史博物館へ。大変な人出でこの施設の人気の高さが窺えました。恐竜の全身骨格模型や人が出現してからのマンモスや各種の象、オオツノジカ他の全身骨格など素晴らしい展示でした。全部見るには圧倒的な時間不足、不完全燃焼で館を後にしました。

昼食は登利平富岡店で摂る予定でしたが、予約のきかない店で、しかも混雑していましたので、弁当を購入して車内等で食べることにしました。



最後は世界遺産富岡製糸場へ。世界遺産は混んではいましたが、見学で止まることはありませんでした。



3 秋の遺跡めぐり 10月19日(日) 鶴岡市の遺跡と文化財 鶴岡市中央部・南部の遺跡と展示施設を巡る予定です。



考古学への関心の裾野を広げる事業

館長講座「遊佐町の考古学」を開催。

特別テーマ展に展示する資料や検出された隣接地を含む遺構と遺構について7月の日曜日に2回に分けて解説・説明しました。

第1回(7月6日(日))

・遊佐町の弥生時代から平安時代① 受講者 7 名

第2回(7月13日(日))

・遊佐町の平安時代②、中世 受講者 11 名

※なお、講座の配布資料は当館ホームページからダウンロードできますのでご利用ください。



第 33 回企画展

「縄文時代草創期の石器工房-日向洞窟西地区-」

9 月 13 日(土)～11 月 30 日(日)

※令和 6 年度の刊行された報告書に基づいて、その成果を展示します。

企画展開催中に、考古学セミナー、企画展講演会などの関連企画を実施して理解・関心の向上に努めるとともに、展示図録を刊行します。

展示構成は以下のとおりとします。

序 章 日向洞窟遺跡西地区の調査と縄文時代草創期遺跡群

日向洞窟遺跡西地区の発掘調査の経過を振り返ると共に、大谷地周辺の草創期遺跡の概要を図と写真で展示します。

第 1 章 日向洞窟遺跡西地区出土の土器

VI層(草創期)の土器と早期以降の出土土器を展示します。

第 2 章 日向洞窟遺跡西地区竪穴状遺構出土の石器

ST4 唐出土した尖頭器、有舌尖頭器、半月形石器、石鏃、石錐、搔器、削器、礫石器等を展示します。

第 3 章 日向洞窟遺跡西地区土坑出土の石器

土坑として登録された SK11～15 から出土した石器群を展示します。

第 4 章 日向洞窟遺跡西地区VI層出土の石器(1)

日向洞窟遺跡西地区VI層から出土した I～IV類の尖頭器と I～II類の有舌尖頭器、I～II類の半月形石器を展示します。

第 5 章 日向洞窟遺跡西地区VI層出土の石器(2)

日向洞窟遺跡西地区VI層から出土した I～VII類の石鏃を展示します。

第 6 章 日向洞窟遺跡西地区VI層出土の石器(3)

日向洞窟遺跡西地区VI層出土の I～V類の石錐を展示します。

第 7 章 日向洞窟遺跡西地区VI層出土の石器(4)

日向洞窟遺跡西地区VI層出土の I～VII類の搔器を展示します。

第 8 章 日向洞窟遺跡西地区VI層出土の石器(5)

日向洞窟遺跡西地区VI層出土の I～VI類の削器を展示します。

第 9 章 日向洞窟遺跡西地区VI層出土の石器(6)

日向洞窟遺跡西地区VI層出土の I～VI類の篋形石器を展示します。

第 10 章 日向洞窟遺跡西地区VI層出土の石器(7)

日向洞窟遺跡西地区VI層出土の I～VI類の両面加工石器を展示します。

第 11 章 日向洞窟遺跡西地区VI層出土の石器(8)

日向洞窟遺跡西地区VI層出土の I～II類の石斧を展示します。

第 12 章 日向洞窟遺跡西地区VI層出土の石器(9)

日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層出土の礫石器の有溝砥石・砥石・敲石凹石・磨石・石皿・礫を展示します。

第13章 日向洞窟遺跡西地区Ⅵ層以外出土の石器(10)

上層から出土した石器を展示します。



考古学セミナー

企画展のテーマに沿った考古学セミナーを開講し、企画展講演会も開催します。
企画展の展示資料について理解を深めて頂くことを狙いとしています。

※第26期考古学セミナー

講座のテーマ「縄文時代草創期の石器工房－日向洞窟遺跡西地区－」

第1回 9月21日(日)

渋谷孝雄(当館館長)

「日向洞窟西地区の調査と縄文時代草創期の置賜の概要」

第2回 9月28日(日)

鈴木 雅氏(蔵王町教育委員会)

「日向洞窟遺跡の槍先形尖頭器を技術基盤とする石器群と東日本における位置づけ」

大場 正善氏(公益財団法人山形県埋蔵文化財センター)

「日向洞窟遺跡西地区出土の頁岩製槍先形尖頭器における技術学的検討」

第3回 10月5日(日)

鈴木 大輔氏(高畠町教育委員会)

「日向洞窟遺跡西地区の年代的位置づけと石器群の構造」

水口 哲氏(高畠町教育委員会)

「日向洞窟遺跡総括報告書刊行に向けて」



企画展講演会

11月9日(日)

演 題 「日本列島の縄文時代草創期と日向洞窟遺跡」

講 師 佐藤 宏之氏(東京大学名誉教授)